



平成18年度体験型海外教育実地研究 参加者成果報告書

平成19年3月

広島大学大学院教育学研究科
広島大学グローバル・パートナーシップ・スクール・センター
(米日財団奨学寄付金事業)

ま え が き

グローバルシティズンシップを備えた教員養成をねらいとした「体験型海外教育実地研究」は、米日財団の研究助成を受け、小原と、深澤清治教授、朝倉 淳助教授、神山貴弥助教授の4名が共同で2005年4月1日に創設した広島大学グローバル・パートナーシップ・スクール・センター（略称はGPS C、通称は「ドナルド・スペンス・センター」）の企画・運営の下、大学院教育学研究科博士課程前期の選択授業科目として初めて実施したものです。センターの目的は、将来学校間連携などのグローバル・パートナーシップを推進するリーダーとなる人材を育てることや、そのために必要な多様なプログラムを開発することですが、その観点からみた本年度の成果としては、次の3点を指摘することができます。

第1の成果は、参加者の大半が既に教員免許を持ち、これから優れた教員を目指している大学院生および現職派遣教員であったこともあり、教員としての実践的指導力の向上を図ることができたことです。特に、日本文化に関する教材を開発し、それをアメリカ合衆国ノースカロライナ州の公立小・中学校において英語で授業を行うという体験や、現地での経験豊富な教師の授業を直接見学するという経験は、グローバル化時代の教員となるためにも貴重な学習であったと考えられます。

第2の成果は、現地の先生方の献身的なお世話と、趣旨を十分理解された上での優れた実習指導によって、日米間の国際交流の重要性や、それを推進するためのグローバル・パートナーシップの必要性に関する理解を十分図ることができたことです。短期間であっても、参加者との間で、強い人的ネットワークが構築することができたと考えます。

そして第3の成果は、「体験型海外教育実地研究」の企画・実施・評価の過程を通して、グローバル・パートナーシップを推進するリーダーとなる人材を育てるための一つのモデルとなるプログラムを開発することができたことです。今後は、毎年の実施を通して、これを更に吟味・修正していくことが求められていると考えます。

なお、今回は、実施が9月初旬ということもあり、新学期開始のあわただしい時期で、現地の学校に多大の迷惑をかけることになりました。また、旅費・宿泊費など受講生の負担が大きく、最終的に断念する大学院生も出ました。人数の点では、今年度は最適の規模でしたが、今後人数が増えた場合には、引率教員や受け入れ学校の確保などの課題も生まれると考えられます。これらについては、来年度、改善の方向で検討しております。

最後に、今回の実施に当たっては、多くの人々にお世話になりました。実施全般にわたって協力していただいたイーストカロライナ大学教育学部のレッドフォード先生、実習校であったエルムハースト小学校のスザン先生、ウォールコート小学校のワトソン先生、G. R. ウィットフィールド校のパム先生には心よりお礼を申し上げます。また、研究助成をいただいた米日財団、実施に当たって支援をいただいた大学院教育学研究科学生支援・教育研究活動支援の両グループにも深く感謝いたします。ありがとうございました。

平成19年3月30日

広島大学大学院教育学研究科教授 小原 友行
(広島大学グローバル・パートナーシップ・スクール・センター代表)

目 次

1. 第8学年 英語 「Let's take a look at a dollar store in Japan」 教育学研究科学習科学専攻学習開発基礎専修 岩城 宇紀……………	1
2. 第3学年 異文化理解 「Challenge! Japanese Onomatopoeia!」 教育学研究科学習科学専攻学習開発基礎専修 武田 由紀子……………	7
3. 第3学年 道徳 「『Think』すると『Thank』がみえる —感謝の表現:日本とアメリカの食習慣から—」 教育学研究科学習科学専攻学習開発基礎専修 長江 綾子……………	17
4. 第5学年 総合的な学習 「We love Hiroshima! —We tell you our favorite places and things in Onomichi and Mihara.—」 教育学研究科研究生 丸子 保子……………	35
5. 第4学年 「絵手紙を描こう」 教育学研究科学習科学専攻カリキュラム開発専修 大里 弘美……………	43
6. 第4学年 レクリエーション 「Bingo of Japanese!!」 教育学研究科生涯活動教育学専攻音楽文化教育学専修 為重 友馨…	55
7. 第7学年 音楽 「日本民謡を体験しよう」 教育学研究科生涯活動教育学専攻音楽文化教育学専修 村島 唱子…	61
8. 第3学年 RAKUGO 「Jyugemu -Japanese Comic Story-」 東広島市立三ツ城小学校教諭 林 万青也……………	69

体験型海外教育実地研究

学習科学専攻 学習開発基礎専修 岩城 宇紀

1 はじめに

今回、このプログラムに参加したいと思ったきっかけは、アメリカの学校を見学し、そこで実際に授業を行うという、普段できないようなことがこのプログラムに組み込まれており、とても魅力を感じたからです。また日本の学校との違いや日本とアメリカの文化、習慣との違いを感じることによって、自分自身の価値観を広げることができるのではないかと思い参加させていただいた。

2 実地研究の日程と概要

		交通等	訪問地・用務等	泊
4/11	火	履修等, 説明会 L304		
6/1	木	1330-1500 L304 第1回 事前研究		
6/29	木	1330-1500 L304 第2回 事前研究		
7/25	火	1800-1930 L304 指導案(英文)検討 7/28 講演会・7/29 学校間国際フォーラム 打ち合せ		
7/28	金	1330-1420 C527 講演会 米国小学校教育事情(TAGとグローバル教育)		
7/29	土	1300-1630 広島県立生涯学習センター GPSC 学校間国際交流フォーラム		
8/3	木	1330-1600 L304 第3回 事前研究 個別研究テーマ(授業実践研究)の交流と協議		
8/29	火	1330-1600 L304 第4回 事前研究 旅程確認・諸準備ほか		
9/3	日	広島-成田 0745-0925 NH-3128 成田-ワシントン 1110-1045 NH-2 ワシントン 1344-1448 ローリー UA-7183 ローリーからグリーンビル(車)	6:50 広島空港集合	米国ノースカロライナ州 Greenville City Hotel & Bistro 203 W. Greenville Blvd, Greenville, NC 27834 TEL (877) 271-2616 Toll Free (877) 271-2616
9/4	月	車での移動	East Carolina University (ECU) 事前打ち合せと準備	Greenville 同上
9/5	火	車での移動	Elmhurst Elementary School 授業見学とミーティング East Carolina University 日本語クラス参加	Greenville 同上
9/6	水	車での移動	G.R Whitfield School 学校訪問と授業実践 East Carolina University	Greenville 同上

			Joyner Library 教材研究と研修 ECU の授業に参加 ECU の学生を交えての食事	
9/7	木	グリーンビルからローリーへ車で移動	Exploris M.S 学校訪問	米国ノースカロライナ州 Raleigh Raleigh Marriott Crabtree Valley 4500 Marriott Dr., Raleigh, NC 27612 TEL (919)781-7000 FAX (919)781-3059
9/8	金	ローリー 1245-1350 ワシントン UA-7374	ワシントンでの実地研究	Washington DC Beacon 1615 Rhode Island Ave, NW, Washington, DC 20036 TEL (202)296-2100 FAX (202)331-0227
9/9	土		ワシントンでの実地研究	Washington DC 同上
9/10 9/11	日 月	ワシントン 1220-1520 成田 NH-1 成田 1725-1900 広島 NH-3129		機中泊
9/29	金	事後指導 発表会		

3 実地研究授業

3.1 第8学年 English Language Arts 「Lets take a look at a dollar store in Japan」

3.2 事前準備

日本とアメリカの文化や習慣の違いが 100 円ショップに映し出されているのではないかと思います、それをアメリカの子どもたちに伝えたいと考えた。事前に 100 円ショップに行き、いろいろなグッズを購入してきた。100 円とは思えないようなお買い得なグッズ、そして「なるほど」と思うような便利グッズという 2 つの観点から購入してみた。

また、100 円ショップの店内の様子をより理解してもらうために店の写真を用意した。

3.3 學習指導案

Takanori Iwaki

1) Title

Let's take a look at a dollar store in Japan

2) Target grade

Grade 8

3) Subject

English Language Arts

4) Purpose of the present lesson

Feel the characteristics of Japanese people through one dollar store

5) Preparation article/equipment

- Pictures of a dollar store in Japan
- Some goods from a dollar store

6) Teaching process

1. Ask them their images of a dollar store and show pictures of one dollar store.
2. Think about what are sold there.
3. Tell them that I have brought a couple of things from one dollar store that they have never seen in one dollar stores of America.
4. Show them and ask what each thing is.
5. Make groups of 5~6 people and let them think what they are.
6. Give them the answers.
7. Show them some magic using goods of one dollar store and a picture. Then tell them some different ways to use those goods.
8. Ask them the impression of today's class and whether they have changed the image of one dollar store through the purposes of the Japanese using one dollar store.

Student	Teacher	Material
<ul style="list-style-type: none"> • Tell the images of one dollar store. • Talk about what they are in 	<ul style="list-style-type: none"> • Ask the images of one dollar store. • Show them pictures of one dollar store in Japan. • Show them some things that are generally sold in one dollar store. • Show them some things that they have never seen in one dollar stores of America. 	<ul style="list-style-type: none"> • Pictures • One dollar store goods

<p>groups.</p> <ul style="list-style-type: none"> • Explain what they think they are in front of everyone. • Describe and express what they think. 	<ul style="list-style-type: none"> • Make some groups of 5 or 6 and give each group one of those things. • Give them some time to think about what they are. • Tell them the answers and how to use them. • Show them some magic and explain some picture of a shelf made by using goods of one dollar store. • Get the impression of today's class and ask them whatever they are interested in. (Ask what is changed in their mind and why those gadgets are not sold in America.) 	<ul style="list-style-type: none"> • A ring and string • A picture
--	---	--

3.4 授業の実際

実際にやってみたところ、日本で購入した 100 円ショップのグッズを見せて、どうやって使うのかというクイズを出し、いくつかのグループに分け、それぞれ異なったグッズについて考え、その後発表するというところまでは順調にいったが、日本人はなぜ 100 円ショップに行くのかというまとめの部分と、生徒それぞれの感想を聞くところまでは時間が間に合わずできなかった。

3.5 考察

授業を行なう前までは、頭の中でいろいろ考えてイメージできていたが、実際にやってみると、イメージ通りにいっている時はよいが、意外な質問や、ちょっと予測していなかったことがでてくるとなかなかうまく対応できなかった。そして、もう少し文化的な相違という点について考えさせたかったが、結局 100 円ショップのグッズ紹介で終わってしまった感がある。

4 体験型教育実地研究における自己変容

4.1 教育観の変容

9月が新学期のスタートということもあり、思っていたよりも子どもたちが静かであった。もっと質問や発表に対して活発な議論ができると思っていたが、意外とそうでもなかった。子どもたち一人ひとりの顔の表情を見ていると、何か言いたそうな感じではあったが、僕と初対面ということなのか、それとも担任の先生がそういった指導をされているからなのか、とても静かに時間がすすみました。

また、先生の力というものが絶対的でした。先生が話し出すと子どもたちはすぐに静かになりますし、先生の言ったことには絶対に逆らわないでいました。また、先生たち自身は、教員という仕事がとても好きで楽しんでいるように見えました。仕事の内容もきちっと自分の仕事が決められており、日本のように学校内のいろいろな役割を受け持つということはないようでした。仕事は忙しそうですが、きちんと自分の時間を大切に、オンとオフというものははっきりとつくれるような環境にあるのだと感じました。

4.2 自分自身についての変容

僕自身、日本では自分の思っていることをすぐに口に出して言うタイプで、なかなか初対面の人には受け入れてもらえないような性格ですが、今回このプログラムに参加してきて、アメリカの人にはもっと自分自身を積極的に表に出しているのだと感じました。ECUの学生と関わる機会もありましたが、とりあえず何か言ってみるという気持ちが伝わってきました。アメリカ自体が自分を積極的に表現していかないと生きてはいけないような国であるのだと感じた。国際舞台で活動するにはこういった精神をもっと身につけていかなければならないのでしょう。しかしながら日本は昔から、言わなくても理解するという文化を持ち続けているので、それもまた‘日本人らしさ’を表現する上では、なくてはならないものであると思うので、両方を時と場合によって、うまく使い分ける必要があるのではないかと感じました。

4.3 グローバルマインドに関する変容

もう少し日本についてしっかり知っておく必要があると感じました。現地で日本のこと(今回は特に日本の教育について)をいろいろと聞かれることがありましたが、そのときにきちんと返事ができなかったのも、意外と自分の国のことについて知らないのだと感じました。一方、現地の人たちは、こちらから質問しても、必ず何か答えてくれるので感心しました。そうするためにも、常日頃からいろいろなことに対し、自分なりに考え、自分自身の意見を持つことが大切なのではないかと思いました。日本ではわかっているふりをしておけば、その場をうまく切り抜けられるという場面が多々ありますが、世界を舞台に戦っていくためにはそれでは不十分だと思いました。

5 おわりに

今回、このプログラムに参加して、集団の力をいうものを改めて感じました。一人だとあきらめてしまうような状況でも、周囲に知っている人たちがいると、一度やってみよう、なんとなくできそうな気がするという気持ちになりました。一人のとき以上に積極的に行動できたと思います。これもこういったプログラムの利点ではないかと思います。

今回のプログラムは本当に充実していたと思います。短期間のうちに、これだけ密度の濃いスケジュールを組むことができたのも、関係者の皆様のご尽力があつてのことだと思います。本当にありがとうございました。